

森美術館 2020年度以降の企画展スケジュールのご案内

森美術館では、2020年春から夏、現代美術の分野で世界から見た日本を再考する「STARS展：現代美術のスターたち—日本から世界へ」を開催します。また、52階の東京シティビュー・スカイギャラリーを会場に、建築展では4年ぶりとなる個展「ヘザウィック・スタジオ展」を開催します。秋から冬会期の「アナザーエナジー展：創造しつづける女性アーティスト(仮題)」では、世界各地で注目が高まる70歳以上の女性アーティスト約15名を紹介します。その後、3ヶ月間の森アーツセンター全館改修工事を経て、2021年春、日本の社会派アーティスト集団Chim↑Pomの個展を開催します。さまざまな価値観の共存が求められる今日、世界を多様な視点で切り取る森美術館の今後の企画展にどうぞご期待ください。

■ 2020-21年度企画展

STARS展：現代美術のスターたち — 日本から世界へ

会期：2020年4月23日[木]－9月6日[日]

会場：森美術館

ヘザウィック・スタジオ展

会期：2020年4月8日[水]－6月14日[日]

会場：六本木ヒルズ展望台 東京シティビュー・スカイギャラリー

アナザーエナジー展： 創造しつづける女性アーティスト(仮題)

会期：2020年10月1日[木]－2021年1月3日[日]

会場：森美術館

Chim↑Pom展(仮題)

会期：2021年4月22日[木]－8月22日[日]

会場：森美術館

最新のプレス画像は、こちらの URL より申請、ダウンロードいただけます。

<https://bit.ly/2lVZV9>

プレスリリース お問い合わせ 森美術館広報事務局(共同ピーアール内)：津原、田ヶ谷、伊藤、藤本
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

STARS展：現代美術のスターたち ― 日本から世界へ

会期：2020年4月23日[木]－9月6日[日]

会場：森美術館（六本木ヒルズ森タワー53階） 主催：森美術館 企画：森美術館

戦後の高度成長期、日本では国家規模のイベントが続き、国際化が推進されましたが、今日再びそのような気運が高まっています。その間、現代美術の世界でも、脱植民地主義、多文化主義などさまざまな議論が重ねられ、ビエンナーレやアートフェアなど新たな場が拓がりました。なかでも近年のアジア経済の台頭は目覚ましく、この地域に新しい美術館や市場を生み出しています。

本展では、この間に日本という枠を越えて広く国際的に活躍し、今日、多様な地域や世代から高い評価を得るアーティスト6名を選び、その軌跡を初期作品と最新作を中心に紹介します。彼らの実践は世界からいかに評価されてきたのか。国境や文化を越えた普遍的な課題の追求、伝統や美学、テクノロジーやサブカルチャーなど、日本固有の社会的、文化的、経済的背景を踏まえて探ります。

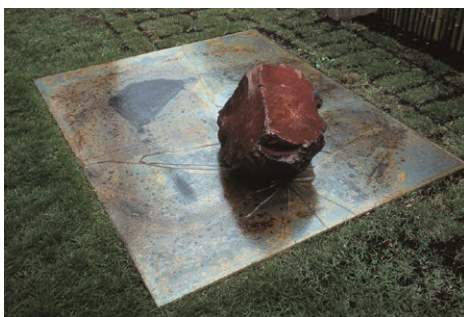
また、1950年代から今日まで、海外で開催された主要な日本現代美術展に関する資料も展示し、それぞれの時代の評価軸や系譜を検証します。

出展アーティスト * 姓のアルファベット順

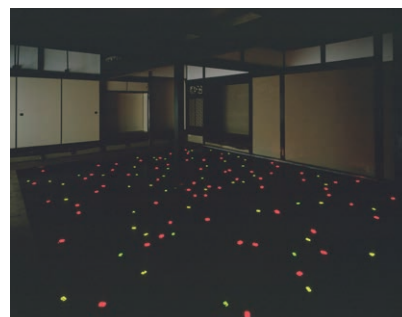
草間彌生^{リ・ウファン}、李禹煥、宮島達男、村上 隆、奈良美智、杉本博司



草間彌生 《ピンクボート》 1992年
詰め物入り縫製布、ボート、オール 90×350×180 cm
所蔵：名古屋市美術館



李禹煥 《関係項》 1968年
鉄板、ガラス、石
180×220×40 cm



宮島達男 《Sea of Time '98》 1998年
展示風景：「家プロジェクト『角屋』」ベネッセアートサイト
ト直島（香川）1998年 撮影：上野則宏



奈良美智 《Submarines in Girl》 1992年
アクリル、キャンバス
100×150 cm 個人蔵



杉本博司 《シロクマ》 1976年
ゼラチン・シルバー・プリント
42.3×54.6 cm

村上 隆 《Ko²ちゃん》 1996-2011年
合成樹脂、ラッカー塗料、グラスファイバー、鉄、コーリアン(台座)
181×61×102.5 cm

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館広報事務局（共同ピーアール内）：津原、田ヶ谷、伊藤、藤本
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

ヘザウィック・スタジオ展

会期：2020年4月8日[水]－6月14日[日]

会場：六本木ヒルズ展望台 東京シティビュー・スカイギャラリー(六本木ヒルズ森タワー52階)

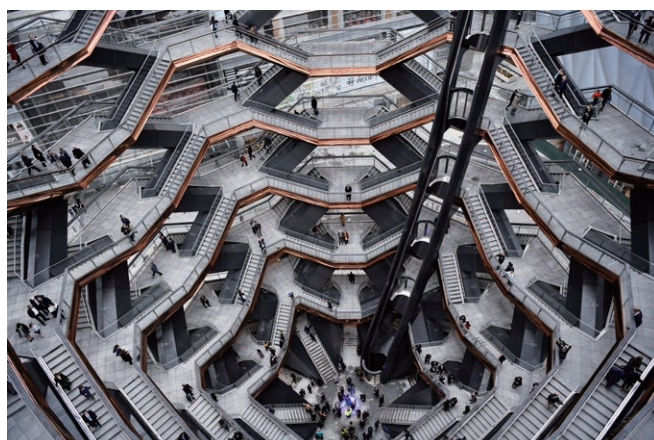
主催：森美術館

企画：森美術館

デジタルテクノロジーが発展し、日常生活に浸透するにつれて、周囲の環境や他者との関わり方も劇的に変化してきました。このような時代、私たちの感情を他者と繋げる共感を公共空間にもたらすことは可能なのでしょうか？

トーマス・ヘザウィック(1970年、英国生まれ)率いるヘザウィック・スタジオ(1994年創設)は、ロンドンを拠点に世界各地で革新的なプロジェクトを手掛けるデザイン集団です。ものや場所の歴史を理解し、多様な素材を研究し、伝統的なものづくりの技術に敬意を表しながら、最新のエンジニアリングを駆使する。そのなかで自然環境と対話し、大きな空間もヒューマンスケールに還元しながら、目の覚めるようなアイデアを実現してきました。

本展では、同スタジオの主要プロジェクトを、「ひとつになる」、「みんなとつながる」、「彫刻を体感する」、「都市空間で自然を感じる」、「古い建物を未来へつなげる」、「遊ぶ、使う」という六つの観点から掘り下げます。人間の心を動かす優しさ、美しさ、知的な興奮、そして共感をもたらす建築とは何か？ヘザウィック・スタジオの取り組みからこの問いを探ります。



《ヴェッセル》
2019年(完成)
ハドソン・ヤード(ニューヨーク)
Photo courtesy : Getty Images

《ヴェッセル》
2019年(完成)
ハドソン・ヤード(ニューヨーク)
Photo courtesy : Michael Moran for Related-Oxford

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館広報事務局(共同ピーアール内)：津原、田ヶ谷、伊藤、藤本
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

アナザーエナジー展：創造しつづける女性アーティスト（仮題）

会期：2020年10月1日[木]－2021年1月3日[日]

会場：森美術館（六本木ヒルズ森タワー53階）

主催：森美術館 企画：片岡真実（森美術館副館長兼チーフ・キュレーター）、マルティン・ゲルマン（インディペンデント・キュレーター）

第二次世界大戦後の動乱期を経て、現代アート表現は多様な拓がりを見せました。そのなかでは、男性中心の視点で書かれた歴史や芸術の解釈、あるいは評価についての疑問も生まれました。欧米を中心としたジェンダー・イクオリティ（男女平等）に関するこれら初期の運動は、今日、グローバルな議論へと発展し、芸術の領域を遙かに越えて拡大しています。

こうした動向を反映し、1950年代後半から70年代にキャリアをスタートしてから現在まで、精力的に活動を続ける女性アーティストたちに、いま大きな注目が集まっています。彼女たちは美術館や市場の評価に関わらず、ただひたすら独自の創作活動を続けてきました。その表現はモダニズムの発展だけでなく、ときに各地の文化的伝統や社会情勢も反映したきわめて多様なものですが、いずれもアートに向けられた強い意志と決意が通底しています。

本展では、世界各地で活動する70歳代以上の女性アーティスト約15名の多様な実践を紹介します。それはまさしく、彼女たちの芸術と生き方そのものへの称揚ともいえるでしょう。

出展アーティスト *姓のアルファベット順

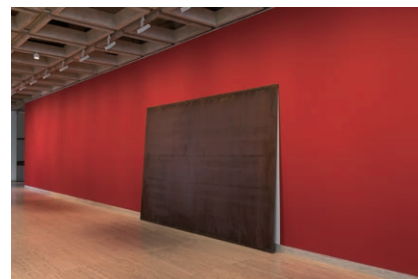
アナ・ボグィギアン、リリ・デュジュリー、ベアトリス・ゴンザレス、スーザン・レイシー、三島喜美代、ロビン・ホワイト ほか



アナ・ボグィギアン 《空から落ちた流星》 2018年
展示風景：アルテス・ムンディ8（イギリス、カーディフ）
2019年



ベアトリス・ゴンザレス 《インテリア・デコレーション》
1981年 スクリーンプリント、キャンバス
展示風景：ドクメンタ14(アテネ)2017年
撮影：Mathias Voelzke



リリ・デュジュリー 《アメリカ帝国主義》
1972年/2018年 鋼鉄、ペンキ サイズ可変
Courtesy: Tucci Russo Gallery, Turin
展示風景：第21回シドニー・ビエンナーレ、ニュー・サウス・ウェールズ州立美術館、2018年
撮影：silversalt photography



スーザン・レイシー 《丸と四角》 2015－2017年
2年にわたるプロジェクト、3日間のパフォーマンス、ビデオ・インスタレーション
撮影：Graham Kay



三島喜美代 《Newspaper P-9》 2009年
シルクスクリーン印刷した陶に手彩色、銅線
34×25.5×20 cm
撮影：高橋健治

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館広報事務局（共同ピーアール内）：津原、田ヶ谷、伊藤、藤本
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

Chim↑Pom展（仮題）

会期：2021年4月22日[木]－8月22日[日]

会場：森美術館（六本木ヒルズ森タワー53階）

主催：森美術館 **企画**：近藤健一（森美術館キュレーター）

アーティスト集団Chim↑Pomは、独創的なアイデアと卓越した行動力で、私たちの意表を突く数々のユニークなプロジェクトを手掛けてきました。作品の主題は都市、消費主義、飽食と貧困、日本社会、原爆、震災、スター像、メディア、境界、公共など多岐にわたり、現代社会の事象や諸問題に対するメッセージ性の強い作品でありながら、その多くにはユーモアや皮肉が感じられます。

2008年には広島原爆ドーム上空に「ピカッ」という文字を飛行機で描き、2011年には東日本大震災と津波、原子力発電所事故を主題にした連作を発表するなど、核や放射能に言及する作品を発表。2017年にはメキシコと米国の国境沿いで境界をテーマにしたプロジェクトを敢行しました。さらに、東京の空きビルを舞台にした展覧会やイベント企画、公共空間としての「道」を制作するプロジェクトや、直近では、マンチェスター国際芸術祭(2019年)で、19世紀に同地で流行したコレラとビールの歴史的關係をテーマにした大型の参加型プロジェクトを発表するなど、その活動の領域はますます広がっています。

本展は、Chim↑Pomの初期から近年までの代表作と本展のための新作を一堂に集めて紹介し、結成16周年を迎える彼らの活動の全貌を展覧会という形式で検証する世界初の試みとなります。



《BLACK OF DEATH(東京 永田町、国会議事堂の上空)》

2008年

ラムダプリント、ビデオ

81×117.5 cm、9分13秒

Courtesy: ANOMALY and MUJIN-TO Production



《ビルバーガー》

2016年

3階分のフロア、事務用品、空調、家具、照明器具、カーペット、ほか

Courtesy: ANOMALY and MUJIN-TO Production

撮影：森田兼次

Chim↑Pom 略歴

2005年東京で結成。メンバーは、卯城竜太、林靖高、エリイ、岡田将孝、稲岡求、水野俊紀。世界各地の展覧会に参加するだけでなく、自らもさまざまなプロジェクトを企画する。2015年、アーティストランスペース「Garter」を東京、高円寺にオープン。また、東京電力福島第一原子力発電所事故による帰還困難区域内で、封鎖が解除されるまで“観に行くことができない”国際展「Don't Follow the Wind」(2015年3月11日～)の発案と立ち上げを行い、作家としても参加。同年、ブルデンシャル・アイ・アワードで大賞を受賞。近年の主な個展に「また明日も観てくれるかな？」歌舞伎町振興組合ビル(東京、2016年)、「ノン・バーナブル」ダラス・コンテンポラリー(2017年)、「平和の脅威(広島!!!!!!)」アート・イン・ジェネラル(ニューヨーク、2019年)など。



撮影：山口聖巴

プレスリリース

お問い合わせ 森美術館広報事務局(共同ピーアール内)：津原、田ヶ谷、伊藤、藤本

Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル